



学校だより

12月号

石川小学校 学校教育目標
育てます。「石川魂」

令和4年11月30日
横浜市立石川小学校
校長 寺園 淳

150周年に向けて～今こそ、石川魂！～

教務主任 花村 仁

わたしが石川小学校に着任して驚いたことの一つに、子どもたちが何かに取り組むときには、決まって「石川魂！」と、まるで合言葉のように挙げることでした。これほど学校教育目標を言える子どもたちが多いことに感心しました。また同時に、「その姿がどんなものかがより明確になれば、子どもたちはもっと自信をもって多くのことに取り組めるのではないか」と感じました。

石川小がどんな子どもたちに育ててほしいかといえば、それはもちろん、学校教育目標である石川魂を体現する子です。石川魂の中身は、「最後まで粘り強く頑張る子、自分や友達の思いを大切に協働する子、自分たちのまちを愛する子」です。それぞれをより具体化して、どんな教育活動においても、その学びの過程における成長や変容を、子どもも職員も、共通認識できる、視点、資質・能力を明確化することが大切だと考えました。昨年度から、職員で研修を重ね、「『石川魂』を体現する子どもって、こんな姿だよね。」「そのために身に付ける資質・能力は、～だね。」といった話を重ねてきました。そして出来上がったものが、「石川魂、7つの視点（「思い・願い」「課題把握」「自己調整」「協働」「伝え合い」「自己理解」「社会認識）」です。この7つの視点は、学校行事や様々な教科・領域においても、学びのサイクルとして始まり、帰結するものです。思いや願いをもって多くのことに取り組み、それを実現し、自分に自信をもてるようになる。そんな主体的に取り組める子どもを育てていきたいと考えます。

さて、先日、PTA 共催懇談会が開かれました。ご参加くださった皆様と、周年行事のイメージを共有して、どのような150周年にしたいかを座談会形式で話し合いました。150周年を盛り上げるための多くのアイデアが挙がり、わたし自身、とてもわくわくとした気持ちになりました。また、あくまでも150周年を迎える子どもたちが150周年の主演役であってほしい、という声が参会者の皆様から多く挙がりました。もちろん、150周年は、今の1～6年生だけではなく、卒業生や保護者、地域の方々、教職員など、時を越えて石川を彩ってきた、全ての方にとって大切なものです。しかし、そこでも主演役は子どもであり、子どもありきの150周年にならないことを改めて感じたことは、子どもたちを指導する、石川小学校の職員として、身の引き締まる思いでした。

職員としてわたしたちが150周年までにできることは、やはり石川魂を体現する子どもたちの育成に他なりません。150周年に向けた準備を子どもたちとつくりあげていくと同時に、日々の授業が子どもの思い願いによって成されているのか、ねらいに沿った資質・能力は身に付いているのか、常に振り返りながら、充実した授業づくりを目指して参ります。

子どもたちが150周年を終える際に、「石川魂を次の160周年に繋いでいきたい。」と、心から思えるように、職員一同、子どもたちを全力で支えて参ります。

合言葉は、「いしかわ～、だましい！」